

2022年2月 旅行取扱高状況報告

< 旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	534,865	195,937	273.0%	33,856,045	1.6%
国内旅行	1,970,768	835,244	236.0%	5,512,092	35.8%
訪日旅行	14,970	4,085	366.5%	2,387,725	0.6%
合 計	2,520,603	1,035,266	243.5%	41,755,862	6.0%

上記、月次取扱高は、エイチ・アイ・エス及び同グループ 5 社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高の合計となります。また、コロナ禍以前と比較をするため、2019年同月比を基準に記載しております。

1. 海外旅行

2月時点において、未だ新型コロナウイルス感染症の収束に至っておらず、水際対策に基づいた帰国後の待機期間や渡航制限の継続もあり、全方面で企画旅行の催行をキャンセルしております。海外航空券の手配需要の動きがあり前年を上回ってきてはいるものの、コロナ禍以前の水準には程遠い状況が続いております。

以上の結果、海外旅行の総取扱高は、前年同月比 273%、2019年同月比 1.6%の 5 億 3,486 万円となりました。

2. 国内旅行

「まん延防止等重点措置」が 18 都道府県に拡大していったことにより、1月に続き国内旅行需要の鈍化がみられました。昨年2月においては、緊急事態宣言下であり、ワクチン接種が開始されていなかった環境でもあったことから、前年同月比においては、2倍以上の伸びとなりましたが、コロナ禍以前の2019年同月比においては、大幅な減少となりました。

2月出発の渡航先のトレンドとしては、北海道の雪まつり氷のイベントや、長崎・ハウステンボスのイルミネーションなど、冬ならではのイベントが後押しとなり、送客数を牽引いたしました。

また、鉄道ツアーの強化により、山形県の銀山温泉・かみのやま温泉に宿泊するコースや、白川郷と五箇山の合掌造り集落を堪能する北陸周遊のコースなど、冬の人気観光地のプランや食事内容の差別化を図ったことで、新たな顧客層の獲得に繋がっております。

以上の結果、国内旅行の総取扱高は、前年同月比 236%、2019年同月比 35.8%の 19 億 7,076 万円となりました。

3. 訪日旅行

世界各国における新型コロナウイルスの変異株のまん延に伴い、外国人新規入国制限が継続されていることにより、訪日旅行の総取扱高は、前年同月比 366.5%、2019年同月比 0.6%の 1,497 万円となりました。

以上の結果、2022年2月の旅行取扱高の総計は、前年同月比 243.5%、2019年同月比 6%の 25 億 2,060 万円となりました。

以上

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177